

— これからの日本も大丈夫だ、だから自分達に任せて欲しい! というメッセージをフリップに書いてみなさんにお伝えください。これからの自民党を担うお二人に改めて決意をお願いします。



鬼木「意志ある楽観」とお伝えしたいです。ちょうどコロナで国が大変だったピンチの時に、「悲観は気分である。楽観は意志である。」というフランスの哲学者アランの言葉を見つけました。もうダメだと悲観的になるのは一時的な気分です。だけど、楽観ってというのは意志を前向きに持つということで、何とかなる! 良い未来が待っている! と強い意志を持って切り拓いていくということだと思います。いま多くの人が日本の未来に自信を失っています。GDPがドイツに抜かれて4位になったとって、もうダメだとなっている。でもその悲観は気分です。強い意志を持って楽観へ転じましょう。これだけ円安になってもまだ世界4位って、ほんとは凄いことなんです。世界に目を転じれば、日本は大国です。私は世界中のいろんな小さな島国とか行きますけど凄く日本はリスペクトされています。もっと自信を持っていいと思います。たしかに今の日本は困難の中にいます。人口は減る、借金が多いという中でどうやってこの国の未来を、持続可能なもの

にしていくのかというのは、悲観しては出来ません。強い意志を持ってなんとかするのだと、いや、できるのだと信じて、皆で励まし合って頑張って行きたいという意味を込めてこう言う言葉にさせていただきました。今後とも日本の将来の為に、粉骨砕身頑張りますのでよろしくお願いいたします。

小林「有志竟成」「志ある者、事、遂に成る」という後漢書にある言葉ですが、政治家にとって必要なものはビジョンと意志だと思います。意志という意味でいうと私は常に、とにかく前を向く、前向きに物事を考えるということを意識するようにしています。出来ないことを並び立てるのではなく、どうやったら乗り越えられるのかという事を、政治家は考えなければいけないと思っています。私は日本に可能性は沢山あると思っています。政治家にとって必要なビジョンや意識を鬼木さんとしっかりと共有しながら、私達が、自民党を変えていくというつもりで、一緒に頑張っていきます。そうした意味でも鬼木議員は今後の自民党、日本の将来の為に絶対に不可欠な議員の一人ですので、皆様方には絶大なるご支援をよろしくお願い申し上げます。



日本の将来のために今、必要なこと

去る2月18日、エルガーホールにて「おにき誠早春のつどい」を開催しました。ゲストに鬼木誠と同期で前経済安全保障大臣の小林鷹之議員をお招きし対談しました。本号では対談の様子を要約して皆様にお伝えします。

— 小林議員より皆様にご挨拶をお願いいたします
小林 皆様、本日は大好きな鬼木議員の「早春のつどい」にお招き有難うございます。同期の一人として鬼木さんの国会での姿、横顔を、少しでもご紹介できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

— お二人はなぜ政治家になろうと思われたのですか
鬼木 私は小学生（城南区・田島小学校）の時に「政治家になって世界を平和にしたい! 平和な国を作りたい!」と思ったことがきっかけです。

小林 私は財務省で十年近く働きましたが、最後の三年間はワシントンの日本大使館で外交官として働きました。2009年の政権交代をワシントンから見ていたのですが、当時の鳩山総理が、普天間基地問題について「最低でも県外」と言って、アメリカとの関係がガタガタと崩れていくのを肌で感じるという体験をしました。そこで危機感を抱いて、当時総裁になったばかりの谷垣総裁に、自分で手紙を送り、党本部に谷垣総裁を訪ね、自民党から国政に挑戦したいと言ったのがきっかけです。



小学校の時の夢は、政治家になって「世界を平和にすること」



高校から続けるラグビー。その熱意でW杯を地元・福岡に誘致



銀行員として地域の現場で生きた経済や地域の実情を学ぶ



30歳で県議会議員、40歳で衆議院議員となり実績を重ねる

日々の活動をSNSで配信しています!
衆議院議員 おにき誠 後援会事務所

〒810-0014 福岡市中央区平尾2-3-15 2F 討議資料
TEL.092-707-1972 FAX.092-707-1984 MAIL:makoto@onikidon.com



政治家として成し遂げたいこと

—— 政治家としてお互いをどのように評価されますか

鬼木 昨年末に、民間のシンクタンクが主催する有事シミュレーションがありました。有事が起きた時に政府はどう動くかというのを、役割を決めてシミュレーションするということです。プレイヤーとして有識者や官僚もいる中で、小林議員が内閣総理大臣役、私が内閣官房長官役を務めました。その時の彼の総理大臣役というのは素晴らしく、「この人はすごいなあ」というのを感じました。

小林 有事においては、国民に対していかにタイムリーにメッセージを発していくかということが極めて重要でした。その時に、鬼木官房長官が頻りに記者会見を開き自分の言葉で本質を突いた、分かりやすいメッセージを国民に発信していて、これは本当に素晴らしい能力だなと感じました。国会における鬼木議員は、将来必ずど真ん中で国を背負う、そういう役割を担う議員です。党本部での会議でも、自分が正しいと思うことは堂々と発言されます。鬼が云うと書いて「魂」という字になりますが、言葉に魂がある。「千万人と雖も我往かん」という孟子の言葉を地で行くような政治家です。だからこそ、人の信頼を得られるのだろうなと思って見えています。

—— 政治家として成し遂げたいことは何ですか

小林 一言でいうと私は「日本を、世界をリードする国にする」

「政治家は税からも処分からも逃れられるのか?!」という国民の怒りはもつともな話だ

る」このことだけを考えてやっています。

鬼木 「日本に自信と誇りを取り戻したい」と思っています。戦後、日本はダメだって言われ続けて、みんなが自信を失っています。私は日本に自信と誇りを取り戻したいと思っています。

党の不祥事にどう向き合う!?

—— 昨年末から続く党の不祥事についてどう思いますか

鬼木 自民党の裏金の問題ですが、ルールがあるのにルールを守らなかった人がいたというのが問題の本質の一点だと思います。収支報告の記載というルールはあるけどルールを守らないで非課税のお金を手にした人がいた、というのが一つです。もう一点は、不祥事があったのに処分をされないというのが問題だと思います。そこをどうするかという議論がこれからしっかりされなければならないと思います。

小林 まず、所属する自民党が多くの国民の皆さまにご心配をおかけしているということにつきましては、私も所属する国会議員の一人ですので、お詫びを申し上げます。法律を作っている政治家が守らないのは良くない。昨今、内閣支持率がどんどん落ちていきます。支持率が下がると打ちたい政策があっても、国民との関係が気になって、なかなかできなくなる。今、国内外に課題が山積しています。

政策の自由度が今失われつつあるというのは非常に強い危機感を持っています。

—— 自民党の信頼を回復するにあたって今後どうすることが必要だと思いますか。

小林 国民の皆様に対して説明責任をしっかりと果たさないと、自民党は前に進むことができないと思います。政治家が法律を順守するというのは大前提です。その上で、自民党の信頼回復の為に二つあると私が思うのは、一つは、どのような時であっても必要な政策を愚直に進めていくこと。経済、安全保障、憲法改正など、やるべきことはしっかりと進めていくことがまず必要です。もう一つは、党を活性化していかなければなりません。私と鬼木議員は約50歳。もう中堅です。私たちが、もっと前面に出て党を主体的に作っていかなければならないと思います。鬼木さんと力を合わせて、自民党を少しでも活性化できるように頑張っていければと思います。

鬼木 「政治家は税からも処分からも逃れられるのか?!」という国民の怒りはもつともな話です。自民党の若手の中でも処分を求める声は大きくなっています。パーティー自体が悪いというように論点は拡散していますが、秘書を雇うにも事務所を運営するのもお金かかる、それに対してパーティーというものをやっていますと言うのを、正直に伝えることが必要です。その説明がないと、政治に対して国民の不信感が広がっていくばかりです。政策についても同

鬼が云うと書いて魂。言葉に魂があるから人の信頼を得られる

様です。税や社会保障が重くなって国民生活が苦しくなっています。一つ一つの政策について、「これだけの負担があるけれどこれだけの受益があるよ」とメリット・デメリットを両方伝える。そうした正直なコミュニケーションというのをしていく必要があると思っています。今日は対談形式にすることで、そういう点も深められるかなと思って初めて試みました。

経済安全保障を共にやり遂げる

—— 小林議員は、経済安全保障大臣を経験されましたが、なぜ「経済安全保障」がいま大事なのか、お話しいただけますか

小林 昨今、経済と安全保障が融合する領域が増えてきています。少し前、マスクやレアアースが調達できないようなことがありました。最近では半導体、デジタル化の流れがある中で半導体を全て外国に頼るような国では良くありません。こういう供給網の話と、もう一つは、サイバーセキュリティです。エネルギー、金融、物流、情報通信、医療、こうした機械インフラのサイバーセキュリティをしっかりと強化しないと、国民の命は守れない。安全保障について、防衛も外交も必要。でもそれだけではダメで、経済からもしっかりとアプローチしなければいけないというのがこの経済安全保障のコンセプトです。鬼木さんと私はそういった問題意識を心底共有できていると思っていますので、これからも連携して、力を合わせてやっていきたいなと思います。



鬼木

衆議院議員

おにき誠

Makoto Oniki

鬼木 誠 [おにきまこと]

1972年福岡市生まれ。田島小学校(城南区)、当仁中学校(中央区)、ラ・サール高校、九州大学法学部卒業。西日本銀行(現西日本シティ銀行)に7年間勤務後、2003年より3期10年福岡県議会議員。2012年衆議院議員(福岡2区)に初当選し、以後4回当選。環境大臣政務官、防衛副大臣、衆議院安全保障委員長、党税制調査会幹事、党国防部会長を歴任。党厚生労働・財務金融各部会長代理としても活躍。2023年12月防衛副大臣兼内閣府副大臣に再任され、現在にいたる。

衆議院議員

小林鷹之

Takayuki Kobayashi

小林 鷹之 [こばやし たかゆき]

1974年生まれ。東京大学法学部卒業後、大蔵省(現財務省)に入省。2003年ハーバード大学ケネディ行政大学院修了。2007年から3年間在アメリカ合衆国日本国大使館書記官として勤務。2012年衆議院議員(千葉2区)に初当選し、以後4回当選。防衛大臣政務官、経済安全保障大臣を歴任。現在は、衆議院憲法審査会幹事、衆議院経済産業委員会理事、党知的財産戦略調査会会長、党日・グローバルサウス連携本部座長、党経済安全保障推進本部幹事長として活躍。

小林

